



1.大理の城門。煉瓦を積み上げた城壁に、大理の文字を彫り込んだ石灰岩の板がはめ込まれている。手前の歩道の欄も石灰岩。

大理石のふるさと 雲南の古都大理を訪ねて

大理石の名の由来となった中国雲南省の大理は、省都昆明から西へ約400 km、東方に洱海湖を眺め、背後には4000 m級の峰々の連なる蒼山をひかえた山麓の古都である。地質学的にみれば、大理は揚子地塊の南西端に位置し、哀牢山変成帯の北西延長部にあたる。蒼山には先カンブリア時代の変成岩基盤が露出し、変成石灰岩(大理石)や片麻岩が古くから建築石材や装飾材として利用されてきた。観光客で賑わう古都の城内や三塔寺周辺に、岩石利用の1000年来の歴史と現在を垣間見ることができる。

(地質調査所鉱物資源部 佐藤興平)



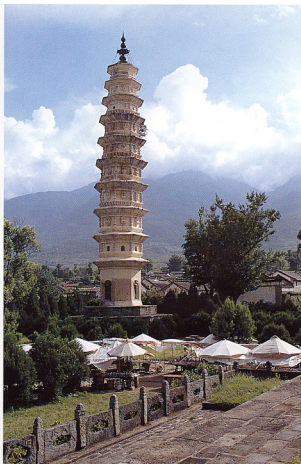
2.ホテルの入口に飾られた石灰岩。不純物の描く絵模様が珍重される。人物は中国地質大学(武漢)の趙鵬大(Zhao Pengda)学長。



3.石灰岩を加工したみやげ物の数々。



4. テーブルに加工される石灰岩，三塔寺の前で。



5. 三塔のひとつ，地震で傾いたとされる，土台と楯は片麻岩。



6. 塔の土台に建てられた碑，文字の部分は石灰岩，周囲は片麻岩，碑文は自然災害の無くなることを祈る，地震の多い雲南省のなかでも，特に大理付近は地震多発地帯である。



7. 石材に加工される片麻岩，白い斑点は長石の斑状変晶。